

放課後等デイサービスガイドラインによる自己評価 結果・改善点・公表方法等に関する報告

うめだ・あけぼの学園
放課後等デイサービス

実施期間：2016年12月上旬～下旬（職員自己評価・保護者等アンケート調査の2種） 回収率： 保護者 90.4%（47人/52人：提出者数/配布数） 職員 100.0%（6人/6人）

<各項目に関する回答集計データ>

別紙1 保護者向け評価表・別紙2 事業者向け評価表 参照

<調査からの読み取りと改善点>

	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備 適切な支援の提供 職員配置・専門性	保護者・職員共に概ね適切と感じている。特に、アセスメントに基づく療育内容については概ね満足を得られている。	専門性については、引き続き支援の要として、職員間での研鑽・プログラムの体系化等をすすめ、スキルアップを図っていききたい。
保護者への説明責任等 関係機関や保護者との連携	幼児期の児童発達支援と比較し、十分な話・連携が出来ていないと感じる意見も少なからずあった。	個別支援計画を通したねらいや方法の共有と、保護者同席（観察）による様子の共有を通して、引き続きポイントを絞ったフィードバックを行っていききたい。保護者の希望を把握し、必要に応じて面談等利用できるサービスを案内していく。
非常時等の対応	防犯・感染症マニュアル等に関して、周知・説明・訓練参加の面で「どちらでもない」「いいえ」の回答が半数あった。	策定されたマニュアルに基づき、避難・防犯訓練については、日中の児童発達の時間帯を中心に行っている。放課後等の時間帯での実施やマニュアルの周知については、次年度はじめを目途に検討していききたい。
満足度	回数の少なさ・対象児の制限（小3まで・法契約での個別療育メニューなし）といったシステムについての意見があった。また、この項目のみ無回答が多い背景に、回答用紙の配置の問題があったと思われる（裏面になっており、気づきにくかった）	当園の放課後デイでは、学齢児初期の「（小学校への）移行支援」をねらいとしているため、このような頻度・内容での設定となっている。別メニューで実費負担での個別療育や面談のほか、アウトリーチ型の保育所等訪問支援事業や特別支援学校外部専門員事業などの地域支援も行っている。引き続き全体的な支援の充実を図っていききたい。

<まとめ>

当園の放課後等デイサービスは、学習姿勢の形成、社会性の育ち、適応支援に重点を置いている。

「余暇活動」「保護者活動」等は想定しておらず、回答時に該当しない項目も複数あった。そのような意味では、独自の方針をもった特徴的なサービスを行っている施設と考えている。

サービス内容の多様性が認められている事業である中で、うめだ・あけぼの学園の放課後等デイサービスは、引き続き乳幼児期の児童発達支援での柱となる理念を継承しつつ、小学校生活への<つながりの支援>を柱にしていきたいと考えている。要望にあった回数・頻度・対象年齢の拡がりは現在のところ考えていないが、療育の質の満足度・情報の共有についての満足度が上がるよう、これからも努力していききたい。

<結果の公表について>

対保護者：保護者向けアンケート集計結果と上記の内容を中心としたまとめを、利用保護者に対しプリント（別紙3参照）で配布しフィードバックを行う。2017年2月～3月予定。

対事業所：結果報告を職員全員にメール添付で配信。集計結果に関しては、職員で共有しているデータフォルダに保存し、各自パソコンで自由閲覧できるようにする。

2017年2～4月予定。